

蟬退 CICADAЕ PERIOSTRACUM

正しい読み方は「せんたい」又は「ぜんたい」である。¹⁾

「蟬退」とは『眼科竜木論』の処方の中に初めて見られる。^{2) 14)}

蟬¹²⁶

<別 名> ^{2) 9) 9) 14) 15) 16) 18) 20) 21) 22) 23)}

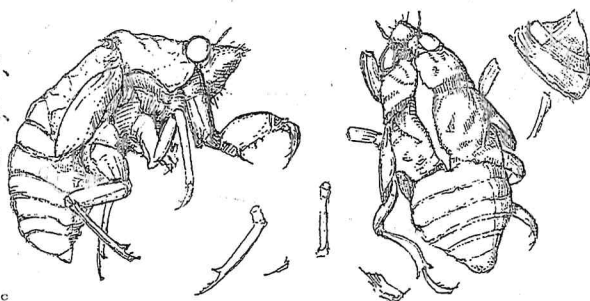
蚱蟬：さくせん『神農本草経』 蟬殻：せんかく『名医別録』 蟬蛻：せんぜい『薬性論』
蟬衣：せんい（江蘇・浙江省） 虫退：ちゅうたい（河南省） 熱皮：ねつぴ（遼寧省）

(基原) ^{1) 2) 3) 9) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 20)}

セミ科 (Cicadidae) の黒蚱 *Cryptotympana atrata* Fabricius (クマゼミの類) 又はその他の近縁動物の幼虫のぬけがらである。

(性状) ^{1) 17) 20)}

全形は蟬に似て中空でやや湾曲している。頭部、胸部、腹部からなり、全長さ3~4cm、幅1.3~2cm、表面は淡黄褐色、半透明で光沢がある。頭部には前方に半球形の頭、丸形の頭楯、それにつづく針形の口吻、両側に扁球形の透明な複眼がある。糸状の1対の触角があり、しばしば脱落している。



胸部は背面が縦列し、内部には白色の繊維状のものがあ、側面の両側の2対の羽は長さ約1.5cm及び約0.5cmである。腹面には3対の足があり、前脚は肥大した鎌上であり、中脚と後脚は細長い。腹部の背面9環節からなり、腹面の中央部は長三角形で階段状の凹凸がある。質は軽く膜質で破碎しやすい。

(産地) ^{2) 3) 13) 20)}

中国：山東、河北、河南、江蘇、湖北、浙江、安徽、甘肅、山西省
山東省と河北省は生産量が大きい。

日本：

韓国：

- ・中国ではセミ科のクマゼミに似たスジアカクマゼミ（黒蚱）の羽化後の抜け殻、日本ではアブラゼミやクマゼミの抜け殻を用います。²⁵⁾
- ・セミは種類が多く分類学的にも未だ整理されていなく、市場品の種類も多い。^{2) 25)}
- ・蚱蟬（黒蟬）のぬけがらを中国では「蟬蛻」といい、日本の市場品では、「蟬退」という。^{2) 13)}

< 蟬の種類と分布 > ^{13) 14)}

スジアカクマゼミ *Cryptotympana atrata* Fabricius : 中国の河北・河南・山東・江蘇・浙江・福建
広東・内蒙古・台湾

アブラゼミ *Craptopsaltria nigrofuscata* Motschulsky : 北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島

クマゼミ *Cryptotympana japonensis* Kato : 本州（東京以西）・四国・九州・沖縄

リュウキュウゼミ *Cryptotympana okinawa* Matsumura : 九州（屋久島以南）・沖縄

ヤエヤマクマゼミ *Cryptotympana yaeyama* Kato : 八重山群島

< 蟬の抜け殻の種類 > ^{2) 3) 14) 25)}

金蟬衣 : 全身黄金色で透明に近く、光沢があり、瘦身で尾部に尖鋭な針状突起がある。

中薬店で「金進」「金蟬」の名で売られている？

土蟬衣 : 灰褐色、半透明で光沢がなく、成虫脱出孔は縦横十字に開裂し、口器は内屈している。

中薬店では「隻進」「只進」の名で売られている？

東医研では、ウチダ和漢薬の安徽省産の金蟬衣という種類の蟬退を使用しています。

(選品)

『色和漢薬図鑑』 : 金蟬衣は土蟬衣よりも高級品として扱われている。清潔で泥や砂が付着しておらず、全身が砕けずに形の整ったものを佳品とする。輸出の規格を「灯籠泡」と称する。土のついたもの、破碎しあるいは赤く変色したものは劣等品とされる。¹⁾

『和漢薬の良否鑑別法』 : 樹上に付着したものを集めたものは「木どまり」と呼び、茶褐色を呈し光沢及び調整法』のある全形を具備せるものが良品であり、土をびたものは下品である。²³⁾

『神農本草経』 : 柳の木の上で生まれたものが薬用によい。¹³⁾

『和漢薬考』 : 幼虫が成虫になるとき地上に出て多くは樹上一二尺に至り頭足を具備して脱皮する。之を「木ゼミ」と呼び此殻皮乾燥すれば茶褐色を呈し堅く且つ泥土を附着し居るを以て薬用としては下品とす、爾後数日を経て三五尺を上り再び脱皮し、更に翅生じ飛去す、其再度の脱皮は前の脱皮よりは軟にして且つ清淨なり、これを「木ノボリ」と呼び薬用には上品とする。¹⁹⁾

ウチダ和漢薬資料：黄色で、体が軽く、（全身が砕けずに）形の整っていない、泥砂のついていないものがよい。破碎しあるいは赤く変色したものは劣等品とされる。蟬の腹の先端が尖っているものを薬用にする。³⁾

<炮制・加工法>

6～9月に樹上又は地面の脱殻を拾得し泥土を去り晒し乾燥する。^{2) 3) 20)}

『本草綱目』：蛻殻を用いるには沸湯で洗って泥土、翅、脚を去り、糊をといた水で煮てから晒し、乾かして用いる。^{2) 3) 20) 22)}

(成分) ^{2) 3) 9) 14) 17) 18)}

有効成分は未詳です。 キチン質（主成分） 窒素7.86% 灰分14.57%

(現代薬理)

薬理は解明されていない。³⁾ 解熱作用と抗痙攣作用・鎮痛作用、神経節遮断作用がある。^{9) 25)}

○煎液がネコの上頸交感神経節の伝達を抑制する。他に骨格筋の緊張度を緩解し、動物の自由行動を抑制して安静化をさせる。^{14) 20)}

○動物実験によれば、蟬蛻は、strychnine・cocaine・nicotineなどによって引き起こされた痙攣に拮抗し、nicotineにより起こる筋肉の振戦を、部分的に消滅させることができる。しかし、penta-methylenetetrazil₀によって引き起こされた痙攣には、拮抗しない。^{2) 9) 18)}

○蟬蛻は、鎮静作用があり、横紋筋の緊張を低下させ、また反射反応を抑制する。また神経節遮断作用を持っているが、adrenaline反応とacetylcholine降圧反応には無影響である。^{2) 9) 18)}

(古典的薬能・薬効)

風邪などの発熱、悪寒に解熱薬として用いるほか、蕁麻疹などの皮膚搔痒症に、止痒的効果がある。咽喉炎、結膜炎などの炎症に消炎作用があり、また破傷風、小児驚風に鎮痙薬として応用する。²⁾

<性 味> ^{3) 9) 13) 15) 16) 20) 21) 22) 25)}

	(味)	(性)		(味)	(性)
『神農本草経』	鹹	寒	『本草綱目』	甘 鹹	寒
『名医別録』	鹹	寒	『中薬大辞典』	甘 鹹	凉

＜歸 經＞^{2) 15) 16) 18) 20) 25)}

肺經：風熱を涼散し肺癆を開宣し、解熱・透疹・止痒・利咽開音に働くので、外感風熱の発熱声啞・麻疹不透・風疹搔痒などに有効である。

肝經：風熱を除き祛風解痙・明目退翳の効能をもつため、小児驚癇夜啼・破傷風・目赤翳障などに効果がある。

『神農本草經』 「中品に主に小児の驚癇、夜啼、癰病、寒熱病を治す。」^{13) 22)}

『名医別録』 「驚癇、産婦の子の下らぬものを治す。焼灰を水で服すれば久痢を治す。」^{2) 21)}

『藥性論』 「小児の壯熱、驚癇を治し、渴を止める。」^{2) 22)}

『本草綱目』 「頭風、眩暈、皮膚の風熱、痘疹の痒きもの、破傷風、及び疔腫毒瘡、大人の失音、小児の喉風、天弔驚哭、夜啼、陰腫を治す。」^{2) 22)}

『万病回春』 「風を消し、驚を定め、疳を殺し、熱を除き、翳の睛を侵すを退す。」²⁴⁾

李時珍：蟬は土、木の余分なエネルギーの化したもので、風を飲み、露を吹い、その気が清虚なものだから、主な治療上の効効は、皆一切の風熱の証である。古代には身を用い、後世では蛻を用いるが概して臟腑、経絡を治するには蟬身を用うべく、皮膚瘡瘍、風熱を治するには蟬蛻を用うべきものである。又啞病、夜啼に主効のあるのは、その昼鳴いて夜やむ意味を取ったもの。^{2) 20) 22)}

疏散風熱・清利咽喉

外感風熱の発熱・咽痛・咳嗽などに薄荷・連翹などと用いる。^{15) 16) 18)}

処方例：清熱湯

風熱鬱肺・肺氣失宣による咽痛・声がれに桔梗・胖大海などと用いる。^{9) 15) 16) 18)}

処方例：海蟬散

透疹・祛風止痒

麻疹の透発に薄荷・牛蒡子・葛根などと併用する。^{15) 16) 18) 25)}

処方例：竹葉柳蒡湯

湿疹や皮膚搔痒感には荊芥・防風などと配合する。^{5) 16) 25)}

処方例：消風散・蟬蛻散

退翳明目

炎症性の目の充血や角膜混濁などには菊花などと配合する。^{9) 15) 16) 18) 25)}

処方例：蟬蛻無皮散・蟬花散・蟬菊散

熄風止癢・定驚

破傷風の痙攣に天麻・全蝎・白姜蚕などと配合する。^{9) 15) 16) 18) 25)}

処方例：五虎追風散・追風散（軽症のものには、単に蟬退30gを使う。）

熱極生風（熱性の痙攣）には、石膏・金銀花・連翹・釣藤鈎などと用いる。^{15) 16)}

処方例：清熱熄風湯

夜泣きや小児のひきつけには釣藤鈎と配合併用する。^{15) 16) 18) 25)}

使用例：蟬退の下半分（頭と足をのぞいたもの）を薄荷湯で服用する。

<民間用法>

みみだれに、粉末をごま油でねって耳中に塗布する。^{14) 17) 25)}

<使用上の注意>

虚弱者・自汗の者・妊婦には慎重に用いる。風熱を呈さない皮疹には適さない。^{15) 16) 20)}

<用量>

常用量：3～9g^{9) 16) 15) 18)}

祛風解癢（破傷風）・慢性腎炎量：15～30g^{9) 16)}

<処方例>^{2) 3) 14) 20)}

消風散（外科正宗）：風湿、血脈に浸淫し、瘡疥生じることを致し、搔痒絶えざる者を治す。

祛風敗毒散（寿世保元）：風瘡、疥癬、癰疹、・・・丹瘤および破傷風を治す。

五退散（眼科竜木論）

海蟬散

清解湯

蟬退膏（赤小玄珠）

竹葉柳莠湯

快透散（小兒痘疹方論）

五虎追風湯（中華医学雑誌）

清熱熄風湯

蟬殼湯（小兒衛生総微論）

蟬花散（正治準繩）

蟬蛻無皮散（銀海精微）

蟬蛻散（沈氏尊生書）

蟬菊散（小兒痘疹方論）

<臨床報告>

○五虎追風湯で艾灸と配合して、破傷風27例を治療した所、死亡率が18.51%まで下降して、治癒率は81.49%に達した。中華医学雑誌1956. 10より^{2) 9) 18)}

○蟬退は蘇葉・益母草・布沮葉・檳榔子と配合し、水煎して服し、慢性腎炎に用いられ、尿タンパクが除かれる。^{9) 18)}

○蟬蛻無比散に全蝎・蜈蚣・鳳凰衣・犀角などを加えて、角膜白斑を治すのに用いられ、初歩的であるが一定の効果がある。^{9) 18)}

(参考文献)

- | | | |
|------------------------|----------------|------------|
| 1) 日本薬局方外 生薬規格 | 1989増補版 薬事日報社 | P44 |
| 2) 和漢薬百科図鑑 | 難波恒雄著 | P331~333 |
| 3) ウチダ佐橋さん資料 | | |
| 9) 漢薬の臨床応用 | 神戸中医学研究所 | P38~39 |
| 13) 意釈神農本草経 | 小曾戸丈夫 | P315 |
| 14) 和漢薬物学 | 大塚恭男 南山堂 | P199~200 |
| 15) 中医臨床のための中薬学 | 神戸中医学研究所 | P65~66 |
| 16) 常用漢薬ハンドブック | 神戸中医学研究所 | P188~189 |
| 17) 新常用和漢薬集 | 東京生薬協会編集 | P80 |
| 18) 中薬学の臨床応用 | 雄渾社 人民衛生社 | P63~65 |
| 19) 増訂 和漢薬考 | 小泉栄次郎著 | P704~706 |
| 20) 中薬大辞典 | 江蘇新医学院編 | P2558 |
| 21) 名医別録 | 中国医薬学中国薬学研究所刊行 | P151~152 |
| 22) 本草綱目 | 国立中国医薬研究所 | P1304~1306 |
| 23) 和漢薬の良否鑑別法及び調整法 | 一色直太朗著 | P275 |
| 24) 万病回春解説 | 松田邦夫 | P64 |
| 25) 漢方くすりの事典 | 鈴木洋著 | P245 |
| 26) 薬剤部古典勉強会資料「消風散料」 | 伊藤正恵 | |
| 27) 薬剤部古典勉強会資料「祛風敗毒散料」 | 鈴木由美子 | |